

4 温室効果ガスの排出の状況

基準年度（令和6年度）の温室効果ガス排出の状況

①エネルギー起源二酸化炭素の排出量		2,217	t-CO <sub>2</sub>
① （温を除く 二室除 酸効く 化果 炭ガ 素換 排 算 出 量）	②非エネルギー起源二酸化炭素		t-CO <sub>2</sub>
	③メタン		t-CO <sub>2</sub>
	④一酸化二窒素		t-CO <sub>2</sub>
	⑤ハイドロフルオロカーボン類		t-CO <sub>2</sub>
	⑥パーフルオロカーボン類		t-CO <sub>2</sub>
	⑦六ふっ化硫黄		t-CO <sub>2</sub>
	⑧三ふっ化窒素		t-CO <sub>2</sub>
	温室効果ガス総排出量（①～⑧合計）		2,217

5 温室効果ガス排出量の抑制に係る目標

（1）温室効果ガス排出量の抑制目標

温室効果ガスの抑制の目標設定方法	総排出量
------------------	------

項目	基準年度 令和6年度 排出量（実績）		目標年度 目標排出量		令和9年度 目標削減率	
	温室効果ガス 総排出量	2,217	t-CO <sub>2</sub>	1,995	t-CO <sub>2</sub>	10.0

項目	基準年度 令和6年度 排出量（実績）		目標年度 目標排出量		令和9年度 目標削減率	
	原単位当たりの 排出量		t-CO <sub>2</sub>		t-CO <sub>2</sub>	

（2）目標設定の考え方

地球温暖化による冷房負荷の増加により厳しい状況ではあるが、照明のLED化及び空調機器等の更新を行い、更なる省エネを実施することにより、温室効果ガス排出量の10%削減を目標として進めていきたいと思っております。

備考1 温室効果ガスの排出の状況のうち、エネルギー起源二酸化炭素を除く温室効果ガスの排出量については、温室効果ガスの種類ごとに3,000トン以上の場合に限り計上してください。  
 備考2 温室効果ガス総排出量とは、エネルギー起源二酸化炭素の排出量と、種類ごとに3,000トン以上の温室効果ガスの排出量の合算をいいます。  
 備考3 原単位当たりの排出量とは、事業活動の特性を的確に示すものとして事業者自らが選択する工場等の床面積、製品の出荷量その他の指標になる単位量当たりの温室効果ガス排出量をいいます。

6 温室効果ガスの排出の抑制等に係る措置

(1) 自らの事業活動に伴い排出される温室効果ガスの抑制に係る措置

取組の区分	具体的な取組の内容	取組の目標
一般管理/省エネルギー使用量等の把握及び管理	エネルギー（光熱給水費）の使用量の把握	使用量のグラフ化の掲示及び周知と経費の削減
省エネルギー・省資源の推進/空調	①冷温水機の更新等 ②空調機・給排機のスケジュール管理	熱効率の向上と燃料費の削減等によるCO <sub>2</sub> 及びエネルギー使用量と原単位の改善
省エネルギー・省資源の推進/空調	クールビズ・ウォームビズの推奨	ホテル利用者に限らず、従業員へ周知し室内温度の管理
省エネルギー・省資源の推進/照明	①未使用か所（宴会場・ロビー・トイレ・廊下等）の消灯 ②照明器具を順次LEDに更新 ③エレベータ使用制限（直上直下階等の移動時）	電力量の削減
自動車利用における取組	営業活動	自転車や公共交通機関の利用を推進 エコドライブの推進（急発進・急加速をしない、アイドリングストップの励行）
調理における取組	調理調整	食品ロスに心がけ、残品の有効活用の励行 ゴミの減量化

指針第1号様式

(2) 非化石エネルギーへの転換に関する措置

ア 非化石電気に関する目標

指標	目標 (2030年度)
使用電気全体に占める 非化石電気の比率	%

イ 計画期間における非化石エネルギーの利用

--

(3) 環境価値 (クレジット等) の活用

--

(4) その他の地球温暖化対策に係る措置

節水、節電への館内注意喚起及び使用量の揭示 両面コピー、裏紙利用等による紙使用量の削減
--

(5) 「環境保全の日」等に特に推進すべき取組

当会館周辺、近隣清掃の実施 各空調機、加湿器、換気設備等の点検強化と清掃 熱源設備の温度適正化 (冷・温水の温度は適正か? など)
---